

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 225

2024・05・29

遅き日のつもりで遠きむかしかな

— 蕪村 —

五月の花に混じって

紫陽花が咲き始めました。

初夏の風と梅雨の先触れを感じる空気が
入り混じった季節。

5月中旬から順次おこなわれていた

図書館の特別整理休館は

最後の中央図書館を残すのみ。(～6月2日)

梅雨時は読書時。

休館明けの図書館に、

本を探しにまいりましょう！

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 旧鎌倉図書館が登録有形文化財になりました	…1
☆ 青山学院大学新図書館棟「マクレイ記念館」をたずねて	…4
☆ 「第26回学校図書館大交流会」に参加して 常岡陽子	…5
☆ 「鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議」を 傍聴して	…6
☆ 図書館とバリアフリー 1	…7
☆ 松坡先生をめぐる人々18 袴田潤一	…8
☆ 映画と本と図書館と 田邊恵美	…9
☆ 銀幕情報	
☆ 友の会活動に関するアンケートに協力しました	…10
☆ F☆L・113 実行委員会第1回報告	
☆ ポラ協報告・協働部会報告 / 活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12



旧鎌倉図書館が登録有形文化財になりました

—旧鎌倉図書館の公開と維持管理計画の作成を求める要望書を提出—



2023年3月21日 『放課後子どもひろばおなり
おなり子どもの家「こぼと」』として生まれ変わった
旧鎌倉図書館

◎長年の願いがかないました

本年3月15日、国の文化審議会は旧鎌倉図書館をはじめ県内の3カ所5件を文化財登録するよう文部科学大臣に答申しました。市内では旧鎌倉図書館と同じ1936年に建てられた旧鎌倉加圧ポンプ場も含まれ、朝日、毎日、読売などの全国紙と神奈川新聞に写真入りで大きく報道されました。

登録有形文化財とは国や自治体が「指定」する文化財とは別に、所有者自らが申請することで「登録」される文化財で、1996年の文化財保護法改正によって制度化されたものです。急激な都市化が進み近代以降の貴重な建築遺産が次々に消えていき、他方で「指定文化財」になると「釘

一本自由に打てない」など所有者に様々な制限がかかって「指定」が敬遠される事態を改善するためにつくられた制度です。現在の全国の登録数は約1万4千件で、登録されると県単位の登録番号を記したプレートが文化庁から授与されます。それを建物に掲出することで登録有形文化財であることの分かりや

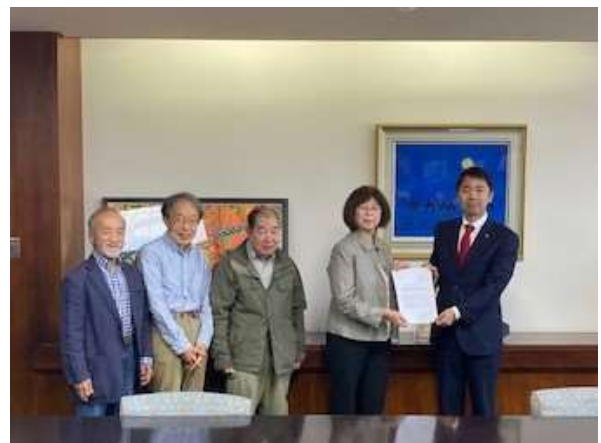
すい目印となります。

TOTOMO が旧鎌倉図書館の保存運動を始めたのは、プレハブの市庁舎に建て替えるための解体予算が 2014 年の 12 月議会に提出されることがわかったときからです。保存に向けた要望書・陳情書の提出、署名活動、シンポジウムや見学会の開催などを行い、多くの市民、専門家の支援・協力を得て、翌年の夏には保存・活用へと市は方針転換をしました。しかし、その後の修復工事がなかなか進まず、昨年 3 月にやっと工事が竣工して学童施設として開所し、その一年後に国登録有形文化財となったわけです。この約 10 年間で振り返ると感慨深いものがありますが、まだ、保存・活用に向けた課題がすべて解決したわけではありません。

◎市に要望書を提出しました

登録有形文化財として登録されることになったことを受けて、旧鎌倉図書館が貴重な歴史遺産として市民に親しまれ、末永く保存・活用されるよう、4 月 25 日に市長に面談し、長らく保存・活用運動に協力して下さった「鎌倉・文化の森」と連名で要望書を提出しました（添付資料①参照）。

要望の主な内容は、外から見える位置にこの建物の歴史的価値がわかる説明板を設置してほしい、市民が屋内も含めて見学できるような公開日を設けてほしい、そして末永く保存されるよう維持管理計画を作成し、保存されている図書館時代の書庫の床板、組み立て式の書架の部材なども含め継続的なメンテナンスを施してほしいというものです。また、市には「景観重要建築物等」と「歴史的風致形成建造物」という二つの指定基準があり、鎌倉文学館、旧華頂宮邸などは両方の指定を受けており、旧鎌倉図書館も後者の候補にはなっているので、一日も早くその仲間入りをさせてほしいということもあわせて要望しました。



旧鎌倉図書館建物の維持管理・一般公開に関する要望書を松尾市長に提出する文化の森、ととも各代表

◎説明板の設置は今年度中に

4 月 25 日の市長面談は短時間ではありましたが、要望の主旨を具体的に説明することができ、それに対する現時点での市の対応についての回答をいただき有意義なものでした。（「タウンニュース」鎌倉版 5 月 10 日号でも報道されました）

説明板については、どのような文章になるのか、造りも耐久性があって誰もが読み取れるものになるのかについて具体的な回答は得られませんでした。6 月議会で予算化し今年度中に設置されることは確認できました。また、間島弟彦・愛子夫妻の寄贈によって図書館が再建された経緯を示す旌徳碑についての説明板も要望したところ、設置する予定で、旧鎌倉図書館が再興された経緯に詳しい袴田潤一さん（逗子開成中学校・高等学校の元校長、本会報に「松坡先生をめぐる人々」を連載執筆していただいています）に解説文の作成を依頼しているとのことでした。説明板の設置については修復工事の段階から「予定している」と伺っていたのですが、竣工後も動きが見えず気になっていましたので、この回答に安堵すると同時に、どんな説明板になるのか楽しみです。関連して、旧鎌倉図書館は市所有の建造物なので市のホームページやパンフレットでの PR も検討してほしいとお願いしました。

次に、建物の見学ができるよう公開日の実施を要望しました。現在、学童施設として活用されており、それ自体は次世代を担う子供たちに親しまれることとなり有意義と感じますが、関係者以外は敷地内に入ることさえできません。施設の性格と市直営でないことで難しい部分はあろうかと思いますが、外観だけでなく屋内の特徴ある様式を肌で感じられるよう、他の歴史的建造物と同様に公開日をぜひ設けてほしいと要望し、旌徳碑については普段でも外部から眺められるような工夫はできないかということも併せてお願いしました。

維持管理計画の作成については今後御成小学校旧講堂や旧諸戸邸（旧長谷子ども会館）の修復工事などが予定されているので、市所有施設の維持管理計画のモデルという意味でも重要であること、そのためには木造建築の歴史的技術の継承、そのための職人の育成、市職員の研修なども必要なのではないかと伝えました。

この要望書への回答は検討事項が多く時間がかかることもあって、現時点では届いていませんが、この度の登録有形文化財の登録にむけた市の尽力に感謝していることを付記して報告を終わります。（和田）

♪旧図書館の修繕・保存、そして国の文化財登録への一連の活動にご尽力くださった方から、嬉しいメッセージをいただきました！その一部をご紹介します。

■井上有紀(港の人)

旧図書館のこと、おめでとうございます。
みなさまの粘り強いご尽力の賜物ですね。
ありがとうございました。

■岩本智実(学校法人青山学院青山学院資料センター)

御成小学校の一角が文化財保護区として見直され、引き続き整備されていかれることを願っております。
4月に竣工しました本学の新図書館棟も、情報学習機能と同居した現代的な図書館となっておりますが、このように時代のニーズに合わせて新しいものを作ることも大切ですが、先人の残した文化的資産をあるべき姿で残していくことも同時に大切なことと思っております。
来年5月の開館に向けて準備を進めております私ども「青山学院ミュージアム」も、文化的資産である間島記念館に開設されることにより、間島弟彦氏のアカデミズムを継承するとともに、建物自体の保存維持に繋げていければと考えております。

■小黒浩司(図書館文化史研究会代表)

旧鎌倉図書館の有形文化財の件、ご連絡ありがとうございます。
皆さまの粘り強い活動が、取り壊し寸前の建物を救ったことになります。
今後の鎌倉市図書館のためにも、意義あることだと思います。
(小生個人としては、学童施設になったため、自由に内部を見ることができないのが、ちょっぴり残念ですが。。)

■吉田鋼市(横浜国立大学名誉教授)

「図書館とともだち」224号送っていただき、ありがとうございました。
旧鎌倉図書館が登録文化財になったようで、よかったです。

■(匿名希望)

旧鎌倉図書館の登録有形文化財への登録、本当に喜ばしいことです。
保存か解体かに揺れ、その後も工事の中断など、大変なご苦労をされたことと思います。
これも貴会をはじめ市民の良心の賜物だと思います。
私自身は、担当替えなどで、途中から鎌倉の問題や図書館のことについて、思うように取材できず心残りでした。それでも、当初の幾つかの拙稿が少しでもお役に立てたとすれば、記者としてこれほど嬉しいことはありません。



(50音順・敬称略)

青山学院大学新図書館棟「マクレイ記念館」をたずねて

【まえがき】

青山学院大学の図書館の歴史は、1923年の関東大震災後の校舎復興事業を機に、神学部、高等部、中等部ごとの図書館を統合した中央図書館を建設したいという機運が高まり、校友会会長であり理事であった間島弟彦氏の遺志を継いだ愛子夫人によって1929年「青山学院間島記念図書館」の建設から始まりました。

現在は「間島記念館」と改称し「青山学院資料センター」等に利用されています。建物は、2008年に国の登録有形文化財に登録されました。

1945年5月25日の米軍の空襲により学院総面積の約7割を被災しましたが、図書館の被害はほとんどありませんでした。1977年に図書館の収蔵スペースの不足解消等のため、新しい図書館を「間島図書館」となりに増築の形で建設され「青山学院大学図書館」と名称が変更されました。

2024年4月「間島記念図書館」建設から約100年、青山学院創立150周年事業の一環として進められてきた新図書館棟「マクレイ記念館」が竣工しました。【マクレイは青山学院初代院長】

3月30日に「新図書館の内覧会」が行われ、旌徳の会5名で見学をしました。

【新図書館の概要（内覧会資料、日刊建設工業新聞、建設通信新聞より）】

図書館の概要：地上6階 地下1階 建築面積 3682.95㎡ 延床面積 16731.24㎡

収蔵冊数 150万冊 閲覧席数 1500席

コンセプト：多くの学校で「ラーニング・commons（英語：Learning commons）」という言葉が浸透し、学生の学習支援を意図して大学図書館に設けられています。近年、学生のグループ学習等をサポートすることを目的とし、情報環境の提供によって、インターネット資源と図書館資料を活用し、知識と知恵のコラボレーションによって、学習を深めるための場を提供する図書館が提案されており、新図書館棟もまさにそこへのチャレンジとなっています。特に、社会からの要請や時代の変化のなかで、開館後も『利用者とともに進化する図書館』をコンセプトとしています。

【感想】

- ・活動の目的や種類に応じて選択できる「多くの居場所」、吹き抜けのある中央閲覧スペース、建物外周の縁側の空間、研究に最適な個室など今までにない図書館に、今の学生さんは幸せだと思ふとともに戻れるものなら20歳に戻りたいとも感じています。
- ・図書館機能のほか、120名収容の「プレゼンテーションルーム」、グループ学習室、PC教室などを備えておりとても素晴らしい。
- ・圧巻は4階から6階に設置された自動書庫と自分で書籍を取出す「セルフ取出し機能」には驚きました。
- ・「バリアフリー」は当然のこと、「ジェンダーレストイレ」も完備しており至れり尽くせりの図書館の完成に感動を覚えました。（平塚 優）



外観



自動書庫

「第26回 学校図書館大交流会」に参加して

深沢中学校 読書活動推進員 常岡陽子

3月17日、「第26回 学校図書館大交流会(※1)」に参加しました。5年ぶりの対面開催、会場の神奈川県立深沢高校の学校図書館はたくさんの図書館関係者で賑わっていました。「学校図書館大交流会」は、神奈川県の小中高の学校図書館関係者や学校図書館が大好きな人、興味がある人たちが情報交換し語り合う場として毎年開催されています。「図書館とともだち・鎌倉」は長年にわたり実行委員として関わってくださっています。



今年のテーマは「学校図書館のスタッフマニュアル」。学校図書館プロジェクト SLiic(※2)による実践報告から始まりました。「学校図書館スタッフマニュアルの作成と活用」の報告では、野口久美子先生(八洲学園大学)より、スタッフマニュアルを作成することは ①ガイドとしての役割 ②業務内容の統一 ③図書館運営改善のきっかけになるというお話や、昨年12月に SLiic 主催で行われた学校図書館プロジェクトイベント「ハンドブック作成」について聞かせていただきました。

事例報告では、各地域の学校司書よりマニュアルが出来るまでの経緯や、各学校図書館の現状について報告がありました。

相模原市・・・2019年「学校図書館教育の手引き」作成(学校司書も作成に参加)

2023年「学校図書館教育の手引き」第2版作成(学校司書も作成に参加)

藤沢市・・・2015年教育委員会と学校図書館ガイドブック(指針)作成

教育指導課主催の司書教諭と学校司書の合同参加研修あり

横浜市・・・「引き継ぎ書作成」必須(フォーマットあり A4-4枚)*引き継ぎのための出張(1回)OK

新採用時研修:「図書館運営について」研修資料の配布あり

研修:年に9回(内22回、学校司書と司書教諭等との合同研修)

勤務時間:年間1020時間(2024年度より5時間増)

神奈川県公立高校・・・正規職員。引継ぎ資料あり 新採用研修(全7回)

その他(参加者より)・・・マニュアルあり:川崎市 / マニュアルなし:鎌倉市、横須賀市、平塚市、中井町

その後、会場校である深沢高校司書の横山さんから深沢高校学校図書館の紹介がありました。始業時間前の開館や、利用案内の嘘版を作成し「間違い探し」で生徒の心をつかむ工夫など横山さん独自の視点から発想する図書館作りについて伺うことができました。

大交流会に参加し、学校図書館マニュアルの意義を改めて確認し必要性を強く感じました。また、近隣地域の学校図書館のことも知ることで実りある時間となりました。それを受け鎌倉市でも「指針になるマニュアルを！」と参加したメンバーで共感し今後に期待が膨らんでおります。ただ同時に鎌倉市は小学校と中学校の司書の勤務時間に大きな差があり統一して作成する難しさも感じているところです(※3)。SLiicの野口先生からご提案をいただいた、まずは業務日誌をつけ現状を整理するところから始めてみるのが良いかと思っています。最後に、子どもたちが毎日通う場にある「学校図書館」が益々充実していくことを願い、報告とさせていただきます。

※1 第26回 学校図書館大交流会

<http://gakuto-kanagawa.seesaa.net/article/502460877.html> (参照 2024.4)

※2 SLiic(スリック)は学校図書館支援を目的とした任意団体です。

<http://www.sliic.org/sliic%e3%81%a8%e3%81%af/> (参照 2024.4)

※3 鎌倉市教育委員会『第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画』P.32

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/library/documents/kodomodokusyo4plan.pdf> (参照 2024.4)

小学校:学校図書館専門員(7時間×12日×11か月 8月は11日 年間1,001時間)

中学校:読書活動推進員(5時間×6日×11か月 8月は休 年間330時間)

「令和5年度第2回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議」を傍聴して

(3月1日 於：中央図書館多目的室)

鎌倉市に「子ども読書活動推進計画」(以後「計画」)が策定されたのは平成20年2月のことです。この「計画」は、平成13年、超党派の衆・参国会議員による議員立法で制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」の規定に基づき策定されました。当時、TOTOMOメンバー2人が策定委員として参画し担当の司書さんと一緒にゼロからの計画づくりに苦心したことを思い出します。その後5年毎に行われる見直しにも当会メンバーが参画しています。「計画」策定以来15年が経過し、現在鎌倉市は「第4次子ども読書活動推進計画(令和5~7年度)」の中にあります。この間、計画の対象者である胎児期から18歳までの子どもたちの読書環境はどのくらい豊かになったのか?策定の目玉の一つであった各課連携による施策は有効に機能しているのか?学校図書館の人の配置や機械化は進んだのか?強い関心をもって会議に参加しました。

感銘を受けたのは、「障害者サービス」や「読書バリアフリー」への取組みを積極的に進めようとする図書館の姿勢でした。日頃より「障害者サービス」は公共が担うべき最も重要な施策の一つと考えています。「障害者差別解消法」が成立してもなかなか社会環境が整っていない現状を打開するためにも、「読書バリアフリー法」を軸に図書館がこの行政課題に取り組むことで、市全体のユニバーサルデザインへの活路が見えてくるのではと期待しています。会議の冒頭、「障害者サービス」の担当司書さんによるデモンストレーションがあり、点字図書、LLブック、大活字本、点字付き絵本、布絵本、リーディングトラッカーなどが次々と紹介され回覧され全員が体験します。さらにスクリーンに映し出されるマルチメディアページ図書で様々な障害に対応できる可能性を傍聴者も一緒に共有しました。

そのほか、海外にルーツのある家族への「多文化・多言語サービス」なども読書バリアフリー施策の一環であることを知る機会になりました。当日配布された資料の中には、子どもたちを対象にしたアンケート調査の集計報告もあり、子どもたちの声が今後の取組みに繋がっていくよう期待しています。

最後に、二つの新庁舎へ移転予定の深沢図書館と中央図書館についても意見が交わされました。この度の「計画」もそうですが、現場に精通する職員が鋭意策定した「鎌倉市図書館サービス計画」に示される理念や、現状分析をふまえた中長期計画が十二分に活かされ、100年先の鎌倉市民にさすが!と喜んでもらえるような図書館にしなくては、と改めて思ったことでした。(阿曾)

※ 連絡会議の詳細は、鎌倉市図書館HP掲載の会議録で読むことができます。[会議録\(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp)



「帰ってきたピラミッド！」

図書館問題研究会神奈川支部より、「しゅほう NO. 428」が届きました!

ページを繰ると、小田原市立小田原駅東口図書館&おだびよの見学報告や神奈川県内の図書館状況(図書館政策や図書館づくり・住民運動)など、注目記事が満載です。極め付きは、折り込み付録の「帰ってきたピラミッド！」(添付資料②)。令和5年度の記録をもとに県内各自自治体の図書館活動を比較した一覧表です。細かい字で少し大変ですが、ぜひご覧ください♪

「図書館とともだち・鎌倉」は、図書館の応援団として、読書バリアフリー法をバックに、図書館あるいは読書とバリアフリーについて、常に考え続けていきたいと思っています。今回から不定期連載「図書館とバリアフリー」始めます！

図書館とバリアフリー

“読書”それぞれのSTYLE あなたの場合は？

会報 DAISY 版（音声版）担当の松本です。

皆さんにお尋ねします。あなたは紙の本派？電子書籍派？それともオーディオブック派でしょうか？私は紙の本が好きです。最近老眼が進んできたので寝る前に布団に入ってから読書は諦めました。本は買って読む？図書館で借りる？私は両方あります。どんな場所で本を読むのが好きですか？私はカフェや図書館で雑誌は読みますが、何だか集中できないし、判りにくい文章は声に出して読むと理解し易かったりするので、読書は家が落ち着きます。3冊ぐらいのジャンルの異なる本を並行して読み進めるのも好きです。全盲の友人は情報なら DAISY で流し聞きするけど、小説や詩歌は点字で読むのが好きと言っています。

読書バリアフリー法が施行されて5年、情報アクセシビリティ法が施行されて2年、この4月からは障害者差別解消法の合理的配慮が民間も義務となりました。しかし神奈川県は読書バリアフリー法に関して計画の策定や審議会の立ち上げも未だされていません。昨年末、県主催のオンライン講座『読書バリアフリー法の理解と実践』が開催されたことは一歩前進です。この中で講師の方がまとめた言葉として「芥川賞作家市川沙央さんの出身地である神奈川県が読書バリアフリーを牽引する役割を果たすべき」と発言されていたのが印象的でした。アーカイブが公開されています。

<https://shien-network.kanafuku.jp/news/seminar.html>

今年初めに文字・活字文化推進機構主催の『読書バリアフリーに向けた図書館サービス研修』が実践も含めたリアル開催されました。こちらも動画が公開されています。

<https://www.mojikatsuji.or.jp/news/2023/11/27/7622/>

第3部の活字を読むことが困難な子供たちへのICTを使った読書サポートが参考になりました。講師の方のお話では、こういった支援を必要とする子どもはクラスに1人位いる感触。学校で配布されたタブレットやスマホなど身近なものの設定を変えるだけで手軽に音声図書を利用できるので、身近な大人が環境を整えてあげることが必要です。当日多数参加されていた学校図書館司書の方々も、必要とは判っていてもどうサポートすればよいか判らず困っていると声を揃えておっしゃっていました。GIGAスクール構想がこういう面でも生かされているのか疑問です。

なかなか進まない読書バリアフリーですが、作家3団体（公益社団法人日本文藝家協会・一般社団法人日本推理作家協会・一般社団法人日本ペンクラブ）から4月9日に共同声明が出されたことは大きな弾みとなるのでは！と期待しています。（松本陽子）
（「読書3団体による共同声明」添付資料③）



公益財団法人 文字・活字文化推進機構
冊子「バリアフリー図書の森へようこそ！」
<https://www.mojikatsuji.or.jp/>

近代日本を代表する宗教家である釈宗演も松坡先生が鎌倉で交誼を結んだ一人でした。釈宗演

(1859—1919 字は洪嶽、号は楞伽窟、小廝兒など) は越前に生まれ、12歳で得度、20歳で鎌倉円覚寺の今北洪川に参じ、その法統を継ぎました。明治25(1892)年、34歳の若さで円覚寺の住職、同派管長となり、翌年渡米し、シカゴでの万国宗教大会に出席しました。明治36(1903)年より建長寺派管長をも兼ねましたが、2年後には両派の管長を辞し、東慶寺住職となりました。明治39(1906)年ヨーロッパ、インドなど、晩年は朝鮮、満州、台湾を巡錫するなど、世界にZenを広めたことでも知られます。

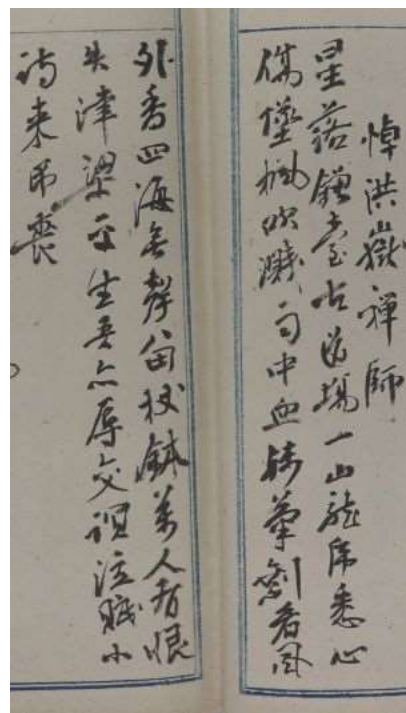
松坡先生と釈宗演との交友が始まった時期ははっきりしませんが、明治40(1907)年頃の松坡先生に「寄洪嶽上人次韵(洪嶽禅師に寄す 次韵)」と題された詩があることから、恐らくは明治30年代末、釈宗演がヨーロッパ、インドの巡錫から帰国した頃には漢詩の応酬を含む交友が始まっていたのではないかと推察されます。

大正時代になると、松坡先生と釈宗演のつながりを示すものがあります。鎌倉市立玉縄小学校校内にある「角田翁頌徳碑」です。玉縄村戸長として同村の発展に功績のあった角田所左衛門を顕彰するため、大正3(1914)年に村民によって建てられた碑です。碑文冒頭に「前円覚沙門洪嶽釋宗演篆額 并 撰文」、末尾に「松坡田邊新之助書」と刻まれています。碑の篆額・撰文・書は多くの場合、複数の人物によりますが、それらの人物の間に交友がないということは殆どありません。撰文者が書き手を指名することもあります。松坡先生が撰文或いは書を担った碑について言えば、樺山資紀、小笠原長生、比田井天来などが関わっています。「角田翁頌徳碑」も釈宗演と松坡先生に交友があったからこそ、玉縄村民が二人に篆額・撰文、書を依頼した、或いは篆額・撰文を依頼された釈宗演

が書き手として松坡先生を指名したということではないでしょうか。

「角田翁頌徳碑」建立の翌年にも、松坡先生と釈宗演を結びつけるエピソードがあります。大正3(1914)年の秋頃から鎌倉の文化向上を図る民間団体を設立する動きが陸奥広吉、勝見正成、大島久満次らを中心に起こり、陸奥広吉は会の命名と発起趣意書の起草を恩師である松坡先生に依頼しました。会は「同人会」と命名され、陸奥広吉は発起趣意書を以て賛同者を募ったのです。同年12月13日付の陸奥広吉宛の釈宗演の書簡には、「主意書を以て御歡誘に與り候へし、鎌倉同人會設立の事、御主意と云ひ發起人の人品と云ひ、申分無之と存じ、鶴群の一鷄に似たる小衲も、喜んで賛同申上候間、可然御指示被成下度願上候」とあります。ただ、その後、同人会設立に釈宗演が具体的にどのような動きをしたのかは残念ながら不明です。

釈宗演が亡くなったのは大正8(1919)年11月1日。「悼洪嶽禅師(洪嶽禅師を悼む)」と題された詩の松坡先生原稿があります。その尾聯(第7、8句)には「平生吾亦辱交誼 泣賦小詩来弔喪 (平生吾れ亦た交誼を辱くす。泣いて小詩を賦し、来たりて喪を弔う)」とあります。



「悼洪嶽禅師」原稿
(「日記」五冊 鎌倉女学院所蔵)



『しあわせの雨伞』（原題：Potiche）

（2010年・仏制作／監督：フランソワ・オゾン）
ギャガ配給（日本公開2011年）

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

『赤ジャージのドヌーヴ、吟行ス』

ふと思いついてサブタイトル付けてみました。いいかも。次回も覚えていたら付けてみます。連載も人生もいつ終わるか分からない、ので今回初、私、そして担当のSさんも大好きな女優さんの作品を。

アラン・ドロンそしてカトリーヌ・ドヌーヴといえば、1960～70年代のフランス映画を代表する存在。今88歳のアラン・ドロンは既に俳優業引退を宣言していますが、今年80歳になるドヌーヴはまだ新たな役柄に挑戦し続けています。この時は67歳。

エイジングは勲章と言われるフランス。歳を重ねつつ、“何かあったに違いない”感を見事にまとうドヌーヴ。いきなり3本線の赤ジャージで登場です。今の日本人なら『ごくせん』の仲間由紀恵か、はたまた芸人ユーチューバーのカジサックを思い出すかもしれません。いずれにしても、なんでこんな格好しているのか？

ドヌーヴ演じるスザンヌは、毎朝、赤ジャージのポケットにメモとペンを入れて森の中をランニング。ゆっくり走り、目に留まる風景から思いつくと立ち止まり、詩を綴る。吟行ランだったので。

2010年作品ですからスマホ普及前。今ならポケットのスマホにメモを取るところでしょうか。でもメモだけなら鉛筆と紙片も悪くない。なんと言っても、軽い。走るなら軽い方がいい。普通の吟行は歩きつつ見つつ。これが走りつつ見つつ、止まってメモ。歩く、と、走る。進む事に変わりはないが、テンション大違いなのでは？

みなさま、良き6月をおすごしてください。

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081）於：鎌倉芸術館小ホール

6/11（火）『ショータイム』 6/27（木）『ポトフ 美食家と料理人』

7/4（木）『きっと、それは愛じゃない』

7/17（水）『ナポレオン』トークショー 戸田奈津子&坂上直行

8/15（木）『いまダンスをするのは誰だ？』トークショー 古新舜監督・主演小島のぞみ

8/29（木）『アメリ』トークショー 吉原豊（配給会社アルバトロス代表）

◎映画上映（6/11,6/27,7/4）：前売り券 1000円（当日券 1300円） ◎上映時間 ①11:00～ ②14:00～

◎7月17日「ナポレオン」・トークショー：入場料 1500円。上映開始 12:00、トークショー 14:50～

◎8月15日「いまダンスをするのは誰だ？」・トークショー：入場料 1300円（シニア 1000円） 上映開始 13:00、トークショー 15:15～

◎8月29日「アメリ」・トークショー：入場料 1300円（シニア 1000円） 上映開始 13:00、トークショー 15:15～

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館（0467-48-5500）へ

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます。



友の会活動に関するアンケートに協力しました

昨年暮れに、東北学院大学大学院で研究される方から図書館友の会の活動に関するアンケート調査への協力依頼がありました。会の運営方針、活動内容だけでなく、図書館との関係に重点を置いているものです。この研究をされている方は、かつて宮城県名取市図書館で司書館長として活躍され、現在は名取市図書館友の会で事務局長をされています。その活動の中で、会の存続や図書館との協働の在り方などを研究するために大学院に入られたとのことでした。

今年3月に、その集計結果が送られてきました。68団体からの回答に基づくものです。図書館内に活動の場所を持っていたり、図書館との定期的な会議を行っている、という団体も多くみられます。これらのデータを分析して論文を執筆されるということですが、私たち自身も今後の活動のヒントにさせていただければと考えています。

この集計結果をご覧になりたい方は、事務局までご連絡ください。

(黒瀬)



ファンタスティック☆ライブラリー・113 実行委員会第1回報告

(4月18日 於：中央図書館多目的室)

4月18日(木) 14:00~15:30 中央図書館多目的室にて実行委員会が、3団体4名と図書館員4名、計8名の参加で行われました。今年度はシステム更新の為、令和7年1月~3月まで中央図書館が使用できないとのことで、開催日と場所については昨年度の委員会で二つの候補日と場所が提示されていました。各団体との話し合いの結果 令和6年12月1日(日)2日(月)に中央図書館で行うことが決まりました。

◎開催時間 10:00~16:00

◎準備 11月30日(前日準備) 9:30~16:00 と 12月1日(当日) 9:30~10:00
搬入物は前もって預けることは可。

◎片付け 2日 16:00 以降

- ・今後については昨年度の時期より開催が早まったので8月までに講演会、展示物の有無、時間帯(午前 or 午後)等、希望スケジュールを立てる。
- ・各団体の発表テーマの最終決定は9月13日(金)を目途とする。内容決定と同時に時間割も決定し、周知に努める。
- ・広報として◎広報かまくら 令和6年11月号 ◎鎌倉萌 令和6年11・12月号の掲載を予定している。
- ・さらに図書館祭りのテーマの継続とチラシについて検討している。
- ・次回実行委員会 令和6年6月20日(木) 14:00~

TOTOMO からは阿曾(松坡文庫研究会兼務)、杉崎、水岡が参加しました。

(水岡)

ボランティア連絡協議会報告

4月18日(木)の委員会では、2023年度総会資料の審議を行いました。これをもって5月の総会は書面評決とし、事業報告、決算報告、事業案、予算案とも無事承認されました。ただし役員選任については、退任予定3名の後任選考が滞っているため、後日任命となることを説明し、こちらも承認されました。※会則により役員は7名です。

一方、ボランティアクラブでは今年も鶴岡八幡宮の七夕飾り製作を始めました。5月8日にはアルペなみんセンターで暮らす方々が遊びに来てくださり、交流しながら楽しく作業しました。(黒瀬)

協働事業推進部会報告

今年度のつながる鎌倉エール事業の募集が始まりました。4月14日(日)には地域のつながり課主催の説明会が開かれ、50名もの参加者がありました。従来の協働コース、スタートアップコースに加え、今年度から地域活性化コースが新設され、幅広く関心を持たれているようです。

4月27日(土)にはNPOセンター主催の相談会が開催され、昨年度実施した団体の経験談を聞いたり、個別相談にも応じました。当部会は引き続き、申請の仕方や計画の立て方など、丁寧にサポートしていきたいと考えています。

つながる鎌倉エール事業について、詳しくは鎌倉市HPをご覧ください。(黒瀬)

[鎌倉市/つながる鎌倉エール事業～まちを良くしたい。その想いにエールを～ \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp)

TOTOMO活動日誌 (3/28~5/29)

4/3	鎌倉・文化の森との話し合い	4/25	図友連神奈川交流会参加
4/3	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会	5/9	Unileaf お手伝い
4/4	Unileaf お手伝い	5/9	ボランティア連絡協議会書面総会
4/4	ボランティア連絡協議会役員会出席	5/15	湘南邸園文化祭総会・連絡会 Zoom 出席
4/8	Unileaf 作業会参加	5/16	おはなしひこうせん勉強会
4/11	ボランティア連絡協議会役員会出席	5/17	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会
4/14	エール事業説明会参加(市主催)	5/21	日野市立図書館見学
4/16	衆議院内集会参加	5/23	図書館協議会傍聴
4/18	おはなしひこうせん勉強会	5/24	読書会
4/18	ボランティア連絡協議会委員会出席	5/27	図書館友の会全国連絡会総会・交流会出席
4/18	ファンタスティック☆ライブ 実行委員会出席	5/28~29	図書館友の会全国連絡会要請行動参加
4/21	建長寺ブロンズ模型お披露目会参加		ロビー活動 随時
4/25	要望書提出と市長との面談		定例会 8回 (4/3, 10, 17, 24, 5/8, 15, 22, 29)

【お詫びと訂正】

- ・会報223号に掲載の山口源治郎さんのお名前が間違っていました。大変失礼いたしました。
- ・会報224号の添付資料内容に誤りがありました。

参考資料「これからの鎌倉の図書館にのぞむ市民の提言」に於いて、以下のように訂正をいたします。

第18項目・鎌倉市の開館日・時間は、正しくは、「火水土日祝 9時30分~18時 木金 9時30分~19時 (休 毎週月曜日 月曜日が祝日の場合翌営業日 年末年始・特別整理期間)」です。

第27項目・鎌倉市が現在メインに使用しているのはトーハンマークです。

以上、訂正し、お詫び申し上げます。

TOTOMO COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ



そろそろ、雨の季節がやってきます。雨音を聞きながらの読書には、どんな本が似合うでしょう。図書館で探してみませんか。

学習会「陣出遺跡と富士塚遺跡の発掘調査について」

講師：境雅仁氏（株式会社イビソク）

日 時：6月9日（日）13時半～15時半 場 所：鎌倉市中央図書館 3階 多目的室
申込み：30名（先着順・無料）電子メールまたは、FAXで。

電子メール toshokantomodachi@gmail.com（図書館とともだち・鎌倉 事務局）

FAX 0467-45-5731（阿曾）

お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX 0467-45-5731）まで。

おはなしひこうせん勉強会

日 時：6月20日（木）10時～12時 場 所：福祉センター

テーマ：「クリスマス」今年度のファンタスティック☆ライブラリーでのテーマです。

各人のテーマに合わせた絵本や紙芝居の紹介とワークショップについて考えます。

お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読書会

日 時：7月19日（金）11時～12時半 場 所：NPOセンター大船

テーマ本：夏川草介著『神様のカルテ』（小学館文庫）、宮部みゆき著『初ものがたり』（新潮文庫）、井上靖著『夏草冬濤』（新潮文庫）

※いつもと会場が異なりますので、お気をつけください。猛暑の折、水分補給のためのお飲み物は各自ご持参ください。皆様のご参加お待ちしております。

お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：6月5日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉

お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

☆図書館友の会全国連絡会

5月27日の総会&交流会と28～29日の要請行動について、次回会報で報告します。

お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。



編集後記 * * * * *

☆旧図書館について会報へ最初に掲載されたのが2015年1月169号でのことでした。

会報に掲載された折々の記事は、旧図書館保存活動の大切な記録となりました。(A.S)

☆今月も、ぜひ読んでいただきたい報告記事をたくさん掲載することができました。

会報発行は、重ね重ねて225号。巻頭の俳句「遅き日のつもりて遠きむかしかな」が、何だか胸に沁みました。(M.S)

題字・巻末カット：小島寅雄

図書館とともだち・鎌倉（代表：水岡やす子）

2024年5月29日発行

編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木

事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545

HP：<https://totomo.sakura.ne.jp/> E-mail:toshokantomodachi@gmail.com

